

環境研究総合推進費令和7年度事後評価個票

研究課題番号	1-2203
研究課題名	トップダウンによる生態系機能を活用した新たな干潟管理手法の提案：水産資源回復と生物多様性保全の両立を目指して
研究実施期間	2022（令和4）年度～2024（令和6）年度
研究代表機関名	長崎大学
研究代表者名	山口 敦子

1．評価結果

評価ランク：S

2．委員の指摘及び提言概要

有明海及び八代海において、水環境管理、生物生産と生物多様性の保全や回復のために「高次捕食者から俯瞰的に干潟生態系を捉え、頂点の捕食者を守ることでトップダウン・コントロールにより水産資源と生物多様性の確保を両立する」生態系機能を活用した新しい手法を提案した。有明海の海洋資源と生態系管理に繋がる多くの学術的意義のある成果が上げておられ、近く見直しをされる有明報告書にも反映されることから政策ともよい連携が取られている。論文による知見発信、国民との科学・技術対話・メディア公表とも活発に実施されたことを高く評価する。ナルトビエイの駆除による二枚貝復活に関して、さらにメカニズムが明らかにされることを期待する。農業等の陸域からの水の流入の影響については今後の課題であり、更なる成果を期待する。また、海の熱容量は大きい影響が現れにくい、温暖化への対応も早めに検討する必要がある。